小泉　優理

高 26 期

マッサージ ／ 鍼灸師

50の手習い波乱万丈！

現在は、訪問マッサージ/鍼灸師として働いています。

2007 年に 10 年以上に及ぶ渡米生活から帰国してからの 15 年は、本当にいろいろな事がありました。

まずは就活。当時五十路も目前、20 カ所近くに履歴書を送り、面接まで行けたのは数えるほど、最初の勤め先は一年足らずで倒産、次の会社はサービス残業が常習化しているブラック企業でした。そして、翌年乳がんで闘病していた姉が亡くなりました。渡米生活を共に過ごし、たった一人の姉でしたので、立ち直るのにかなりかかりました。その喪失感を埋めるように鍼灸学校に入学し、勉学に励みました。鍼灸マッサージ師の勉強をすることは、帰国前から考えていました。この仕事なら年齢に関係なく、元気なあいだはそれなりの給与で働けると考えたからです。これからは年金だけでは暮らしていけません。事務職では 60 歳すぎてから、まともな仕事にはつけません。国家資格を持ち、高齢者向けのリハビリの仕事なら、定年もなく、元気なあいだは歳に関係なく働ける、と考えました。

しかし、学校に入学した年の秋、父が脳梗塞で倒れました。両親ともに 80 を越えていましたので、私が母の面倒をみながら、父の施設に通う日々が始まりました。鍼灸学校の二年の時に、父が亡くなりました。89 歳でした。元気だったときは駅まで車で私を送り迎えしてくれる優しい父でした。追い打ちをかけるように最終学年三年の暮れ、私自身が交通事故で三カ月も入院することになりました。バイクで帰宅時、信号を見間違えた車にはねられたのです。年一回の国家試験に向けて勉強も最終段階に入ったときです。学校も留年することになってしまいました。事故は相手の責任ですので、すべての経費は保険で払ってもらえましたが、右足に若干の障害が残りました。大きな事故でしたので、それくらいで済んだのは幸運でした。入院中は高齢の母は施設でお世話になり、心配した友人たちが入れ代わり立ち代わり病院にお見舞いに来てくれました。退院時も友人が付き添ってくれ、応援してくれた友人たちには感謝に堪えません。三年を二回しましたが、国家試験にも無事合格し、一年遅れて鍼灸学校を卒業しました。医療マッサージの仕事は奥が深く、卒業して 7 年経ってもまだまだ勉強中です。人の体を触って、すぐに求められるマッサージができる手を作るのには、まだ時間はかかりそうですが、やりがいのある仕事です。

ここ 2 年ほどは、コロナ禍で高齢者の訪問の仕事は大変ですが、職場に恵まれ、年下の同僚たちと楽しく仕事ができているのが幸せです。何をするにも体が資本、仕事を通して人々の健康に貢献できるように努力していくのが、これからの私の生きがいです。

■プロフィール

登美丘高校卒業　1978 年 3 月

渡米　1988 年

帰国　2007 年

鍼灸学校入学　2011 年

鍼灸学校卒業　2015 年（鍼灸師・あん摩指圧マッサージ師資格取得）